

名前 小島治幸

専門分野 実験心理学

会議での役割 自閉症に優しい社会：
「共生と治療の調和の模索」
研究プロジェクトメンバー



A班の提言へのコメント・意見



ボードのコメントも「地域、ご近所」に集中していますが、、、

昨今、近所や地域(町内会や校区?)の付き合いは年々希薄になっているのは事実。地域の理解を形成することはかなり大変かもしれないが、まずは近所の理解を得ることが、住みやすい地域コンセンサスを作るための大きな一歩になると思う。



B班の提言へのコメント・意見



一人一人違う、ということを周囲の人々に分かってもらうのは重要。
しかし、人々に、彼ら一人一人の違いを見極めることまで求めることはむずかしい。
それにはかなりの時間や労力がかかる。今の社会そのあたりが難しい気がする。



C班の提言へのコメント・意見



一人一人にきめ細かなサポートをする場合、その本人たちに関する情報が必要になる。そして、それを多くの人が共有する場合、情報の管理が問題になる。

また、障害者と境界者では(あるいは、その障害の程度によって)、必要な情報も違ったものになるだろう。

例えば、ハローワークのような行政的サービスにのせることができるか？
あるいは別個のシステムを考えた方が良いのか？



D班の提言へのコメント・意見



「自閉症の人を理解する教育・情報が不足している」
ということですが、
何よりもまず、自閉症に限らず障害者、高齢者など様々なかたちの弱者と
共に生きてゆく社会の大切さを培うことのできるような授業を
小学、中学、高校でもっと行ってほしいと思います。



E班の提言へのコメント・意見



自閉症をどう捉えるか、という場合に問題になるのは、やはり「多様性」と「程度」をいかに評価するかだと思います。しかし、それは、まだ簡単ではない。特に、客観的方法という点では。

当面は、(特に現場では)個別の「努力」に頼る他ないか、、、？



F班の提言へのコメント・意見



どのような方法で適切な支援／適切な仕事を見つけるのか。適切かどうかは、そのときにはわからないことも多い。支援やサポートの方法は、できる限りデータ化し、長期的な追跡的解析が必要になると思う。

多くの「当事者」にそのようなサポートを十分に行うためには社会コーディネータを養成が急務。ハローワーク職員や地域の世話人、またコーディネータは、どこにどのような需要があるのかを把握し、適所に適材を紹介する能力が問われる。